

「十字架を背負って」

2014年09月20日

マルコによる福音書8章31節～34節。それからイエスは、人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちから排斥されて殺され、三日の後に復活することになっている、と弟子たちに教え始められた。しかも、そのことをはっきりとお話しになった。すると、ペトロはイエスをわきへお連れして、いさめ始めた。イエスは振り返って、弟子たちを見ながら、ペトロを叱って言われた。「サタン、引き下がれ。あなたは神のことを思わず、人間のことを思っている。」それから、群衆を弟子たちと共に呼び寄せて言われた。「わたしの後に従いたい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。」

主イエスは、弟子たちに「あなたがたはわたしを何者だと言うのか」と決断をうながす応答を求められた。ペトロが真っ先に「あなたは、メシアです」と答えた。キリスト教信仰の核心である「キリスト告白」がなされた。ペトロの「キリスト告白」を聞いて、主イエスのご自分に負わされた使命について語られた。「人の子」という言葉を使っている。人の子と言った時、普通は人間を意味するが、新約聖書独特の表現で「主イエス」を指している。だから、私は多くの苦しみを受け、エルサレム神殿の権威ある者たちから排斥され、殺される、しかし、三日後復活すると語られた訳である。弟子たちに初めて、これからエルサレムで起こる十字架と復活について、はっきりと予告された。

すると、ペトロが主イエスをわきへお連れして、いさめ始めた。あれだけ民衆を惹きつけ、力ある業を見せた主イエスが、エルサレム神殿当局によって殺される、更に、死からの復活などということとはあり得ない。訳の分からないことを言っただけでありませんと思ったペトロの行動と言葉はよく理解できる。「あなたは、メシアです」と告白した言葉に偽りはなかった。尊敬し、愛し、全てを捨てて従ってきた。イエスをメシアと心底信じていたのである。しかし、十字架の死と死からの復活は思いも及ばぬことであつた。

すると、主イエスは「サタン、引き下がれ」と最大級の言葉でペトロを叱責し、「あなたは神のことを思わず、人間のことを思っている」と言われた。ペトロは人間のレベルで考え、捉えたので、主イエスの言葉の真意を受け止めることはできなかった。当然である。

ペトロを叱責した後、主イエスは弟子たちと群衆に向かって「わたしの後に従いたい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい」と言われた。「ガリラヤの春」が終わり、十字架にかかるためにエルサレムに上る。その前に、十字架と復活を予告し、主イエスに従う者のあり方について語る重要な時を持たれた。この時の主イエスの行動と言葉には、厳しい決意が込められている。

ここで ① 自分を捨て、② 自分の十字架を背負って、③ わたしに従いなさいと三つのことを語っているが、② の言葉が中心であろう。十字架はローマへの反逆者に科せられた最も過酷な刑罰である。十字架を背負うとは重荷を負うことであるが、重荷は、他者のものと自分自身のものがある。主イエスは「自分の十字架を背負って」と自分に負わせられた十字架を背負えと言っている。他者のために十字架を負わなければと力むことはない。神は人に必ず重荷を負わせられる。その重荷から逃げ出さず、負い続けることで十分である。その中で、他者のために十字架を背負う光栄に与ることができるかも知れない。